

日本の猫説話からみる日本人と猫の関わり

The Relationship between Japanese People and Cats in the Japanese Cat Tales

人文科学系/説話研究/論文

芸術文化キュレーションコース

川越 伊織

Iori Kawagoe

◎はじめに

猫は人間にとって身近な動物の代表格である。猫を身近に感じる私自身の体験の中で、時や場合によって猫との関わり方や抱く印象が異なることに気が付いた。このことから日本人が猫とどのような関わりを持ってきたのかについて興味を持ち、研究を行うに至った。さらに、日本人の猫との関わり方や抱く印象が物語の形で語られている説話に着目し、「日本の猫説話からみる人と猫の関わり」とテーマを定めた。本論文では、人間にとって身近な動物である猫と日本人がどのような関わりを持っているのかについて、日本の猫説話から明らかにすることを目的とする。

本論では、猫の性質や習性、人と猫の関係性が話の内容に関する説話のことを「猫説話」と定義する。そもそも説話とは、神話や伝説、昔話、民話などの語ることで伝えられてきた物語を総称したものである。よって「猫説話」は人々が語ることで伝えられてきた物語であり、その内容に猫の性質や習性、人と猫の関係性が関わっているものであると説明できる。

◎分類と結果

日本人と猫の関わりを明らかにするため猫説話の分類を行う。収集した猫説話には複数のパターンがあり、各パターンを読み解くことが日本人と猫の関わりを明らかにすることに繋がると考えたためである。分類の手順は、収集した383話の猫説話それぞれから要素を抽出、抽出した要素の集計、要素の集計結果から猫説話全体の傾向を明らかにした後、人と猫の関わりという視点から猫説話を分類、とする。

抽出する要素は「猫が登場するか」「飼い猫か」「人の言葉を話すか」「人のような行動をとるか」「猫の年齢」「猫の様子」「人間の猫に対する心情、行動、考え」の7つとし、これらを分析の方法から上記の前5つの要素をグループⅠ、後2つの要素をグループⅡに分けた。グループⅠからは「猫が登場する場合は一般的で、その猫は飼い猫である。猫は人の言葉を話すことも人のような行動をとることもないただの動物として存在し、年齢不明または老猫であることが多い」という傾向が明らかになった。グループⅡでは人と猫の関わりという視点から、収集した猫説話を「i 人の世界に猫を受け入れる」「ii 人の世界から猫を追いだす」「iii 人の世界と猫の世界を区別する」の3つ、さらにこれらが重複する場合(iv~vi)とどれにも当てはまらない例外(vii)を含めて7つに分類した。分類結果の i、iv、v から「①日本人は猫について理解したうえで猫との共存を図る」、ii、iv、vi から「②猫と人は同程度の強さを持つ

ている」、iii、v、vi から「③人には人の世界があるように、猫には猫の世界がある」が導き出された。

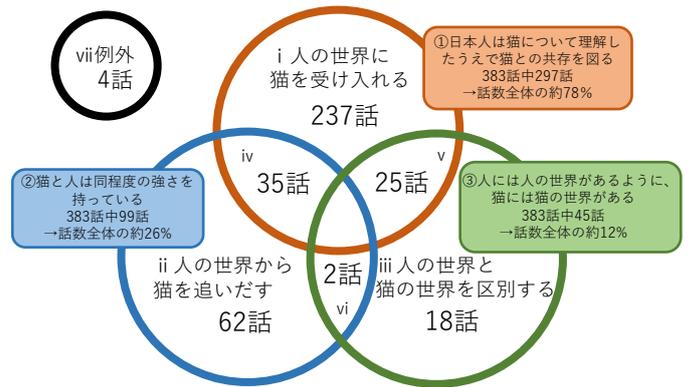


図1 分類結果

◎結論

猫説話の分類から人と猫は対等な関係であることが明らかになった。その根拠として「①日本人は猫について理解したうえで猫との共存を図る」「②猫と人は同程度の強さを持っている」「③人には人の世界があるように猫には猫の世界がある」の3点がある。「①日本人は猫について理解したうえで猫との共存を図る」では、該当する話数の多さから多くの日本人が猫と共に生きてきたことがわかる。さらに該当する説話の内容から、猫に対する嫌悪や恐怖を持っていたとしてもその存在について理解したうえで共存を図ろうという意味が日本人にあることがわかった。「②猫と人は同程度の強さを持っている」では、人と猫は上下関係にあるという人間の慢心を猫から人への報復が覆す動きがみられる。人は強者であり猫は弱者であるという考えを猫が自身の強さを以て否定しているのである。「③人には人の世界があるように、猫には猫の世界がある」では、人の世界とは別に猫の世界が存在すること、そこには人の世界と同様にスキルアップの概念や出世の仕組みがあることがわかった。さらに、猫とは年をとると化けて悪さをする動物であると理解したうえで、人間は人と猫が最大限共に過ごす方法を選択しているということも明らかになった。

以上のことから、日本人と猫は対等な関係であると言える。